

経営(継業)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方^{⑤0}

高下在心

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌、紙に発表。著書に『早川浩士の常在学場』(簡井書房)、『介護人材創造塾』(簡井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

「不心得者」とは

「高下在心(中国古典『春秋左氏伝』)」という言葉がある。

「高下」は、物事がよくなるか悪くなるかということ。

「在心」は、自らの心がけ。

物事がよくなるか悪くなるか(高下)は、あなた自身の心がけ次第(在心)であるという意味がある。

「遅刻をしない」「あいさつを怠らない」「カゼをひかない」というのも心がけの一つ。

遅刻をしない人は、自ら進んで時間に余裕を持って出勤することを心がける。

あいさつを怠らない人は、自ら進んであいさつを、心がける。カゼを引かない人は、自ら進んで健康管理を、心がける。

と、一つひとつを心にとどめて忘れないように心がけることのできる人は、心得が学ばれている。その心得について、4つの視点から問いただしてみたい。

一人として、承知しておくこと、わかまえておくべき事柄を心得ているだろうか。

二 社会人として、考え方判断の

仕方などを心得ているだろうか。

三 専門職として、技術などを身につけることを心得ているだろうか(例: 茶道の心得)。

四 事業所(組織)の一員として、一つ上の職務を任用される仮の状態のことを心得ているだろうか(例: 課長心得)。

実は、心得の意味を解説した字句に「○○として、○○を心得ているだろうか」と加えただけのことではない。

心得ることを怠り、心がけの悪いことを野放しにしていると「不心得者!」呼ばわりされた時代もあったことを、今は昔のことであるとさせてはならない。

心得るべきことを疎かにしていると感じたら、「心支度」という心の用意から始めるのがよい。

「おだわらっ子の約束」
神奈川県小田原市内に入ると、学校などの教育施設、公共施設などで目にするのが「おだわらっ子の約束」の立て看板である。

一 早寝 早起きして 朝ご飯を食べます

二 明るく笑顔であいさつします

三 「ありがとう」「ごめんさい」を言います

四 人の話をきちんと聞きます

五 もつたいないことをしません

六 どんな命でも大切にします

七 決まり・約束を守ります

八 人に迷惑をかけません

九 優しい心で、みんなと仲良くします

十 「悪い」とは悪い」と言える勇気をもちます

おだわらっ子は、この約束を守って幸せになります。おとなたちも、この約束を、自ら守り、おだわらっ子に語り続けます。そして、輝く小田原の未来を築きます。

2004年に「小田原市教育都市宣言」を制定した同市では、「しっかりした躰や生活規範を身につけた子どもは幸せになれる」という基本理念のもと、家庭、地域、学校等の共通理解を得て、07年1月に策定されたのが「おだわらっ子の約束」である。

この10項目こそ、トップ自らの心支度を見つめ直すためのよき手ほどきとなるに違いない。